

「アーカイブ」「エッセイ」タイトル一覧表 1～106

	タイトル（論考名）	掲載誌	発表年月	該当ページ（数）
106	15-1「人口減少時代に備える社会科教育課程と学習方法の創造に挑む」	『社会科教育』No.669 明治図書	2015年1月	pp. 130～131
105	14-10「未来予測に立つ少子高齢化の取り上げ方」	『社会科教育』No.666 明治図書	2014年10月	pp. 48～49
104	14-9「コンビニ、介護、居酒屋が支える日本」	『社会科教育』No.665 明治図書	2014年9月	p. 7
103	14-8「少子高齢化と社会保障の課題」	『社会科教育』No.664 明治図書	2014年8月	p. 79
102	13-6「⑦韓国 コラム諸外国の公民教育」	『テキストブック公民教育』 日本公民教育学会編 第一学習社	2013年6月	p. 212
101	13-6「『命の大切さ』を育む教育のための三つのステップ」	『教師の広場』No.176 静岡県出版文化会	2013年6月	pp. 8～11
100	13-2「朝鮮戦争の勃発原因とその後（戦後史の不思議？どう教えるか）」	『社会科教育』No.646 明治図書	2013年2月	pp. 26～27
99	12-6「社会システムの変化と社会科」「生涯学習と社会科」「社会学と社会科」	『新版 社会科教育事典』 日本社会科教育学会編 ぎょうせい	2012年6月	pp. 324～325 pp. 328～329 pp. 386～387
98	12-4「子どもの生きる場の今と未来を求めて－2010年国勢調査探訪」	『教室の窓』Vol.36 東京書籍	2012年4月	pp. 30～31
97	12-1「結果責任なき世界からの決別を」	目ざす理想が招いた“問題ある現実” 民主教育はどういう現象として現れているか	『現代教育科学』No.664	2012年1月号 p.11
96	10-3「保護者への対応・保護者との協力・保護者への指導」	『学力向上の基礎となる生徒指導 教職研修総合特集』 有村久春編 教育開発研究所	2010年3月	pp. 38～39
95	10-3「少子高齢化社会のゆくえ」	『社会科教育』No.611 明治図書	2010年3月	pp.30～32
94	09-8「ミクロとマクロ、変化と恒常の重なりを見切る選択肢の視座を(社会って何?)」	『社会科教育』No.604 明治図書	2009年8月	p. 105
93	09-7「校内の放課後支援活動を情報収集の出島に」(学校の評判 巷の声はどこに集まるか)	『学校マネジメント』No.632 明治図書	2009年7月	p. 7
92	09-6「『男女共同参画社会』の学習」「韓国の公民教育」	『公民教育事典』 日本公民教育学会編 第一学習社	2009年6月	pp.158～159 pp.244～245
91	09-1「未来に生きる男女に必要な学力の再検討を」	『教室の窓』Vol.26 東京書籍	2009年1月	pp. 26～27
90	08-4「教師を責める親から教師を支える親へ—学校を応援しよう」	『灯台』No.571 第三文明社	2008年4月	pp. 25～27
89	07-12「業務の高付加価値化とそのアピールを」	新公務員像—“官から民”への流れの中で考える	『学校マネジメント』No.611 明治図書	2007年12月 p. 7

88	07-4「教師と生徒のあいだを開き拓く多様な人の広がり」(いじめ—なぜ生徒は教師に相談しないのか)『学校マネジメント』No.601 明治図書 2007年4月 pp. 14～15
87	08-1「新たな変化の予兆」08年ってどんな年になる?『社会科教育』No.584 明治図書 2008年1月号 p.107
86	07-2「『知識強国実現』を目指す“IT先進国・韓国”の社会科教育課程と授業の改訂作業」『社会科教育』No.572 明治図書 2007年2月 pp. 108～109
85	06-10「静岡県巻」ここに「この授業あり」103『社会科教育』No.568 2006年10月 pp.134～135
84	06-8「敗戦で得たものを問いなおす迂回を」『現代教育科学』No.599 明治図書 2006年8月 pp. 14～16
83	06-1「高齢化社会の問題 どう取り上げるか—これからの社会に必要な資質能力と総合の改革」『総合的学習を創る』No.187 明治図書 2006年1月 pp. 20～21
82	04-10「子どもの生きる未来からの要請に挑む責任と気概を」(総合の動き『この8年』で見えてきたこと)『総合的学習を創る』No.172 明治図書 2004年10月 p.15
81	04-6「ジェンダー」“この用語”何分で説明できますか?“ニュー教育用語”のポイント解説『学校運営研究』No.562 明治図書 2004年6月 p.57
80	04-4「“韓国の学校”のPR作戦の特色」『学校運営研究』No.560 明治図書 2004年4月 pp.12～13
79	03-9「沖縄より近い地に生まれ育った兵士」『社会科教育』No.530 明治図書 2003年9月 p. 9
78	02-5「公民館企画Q&A 課程教育編 つらい子育て・楽しい子育て」『月刊公民館』No.540 社団法人全国公民館連合会 2002年5月 pp. 26～27
77	01-7「まず、家庭が教育の原点である、という視点自体を問い直すことから始めよう」『現代教育科学』No.538 明治図書 2001年7月 pp. 11～12
76	01-3「『国家』『社会』『イデオロギー』—20世紀を象徴するキーワード」『社会科教育』No.498 明治図書 2001年3月 p. 5
75	01-2「ライフスタイル—人類の未来はどう変わる?」『社会科教育』No.497 明治図書 2001年2月 pp. 28～30
74	00-10「不易と流行—変化しないのは何?」『学校運営研究』No.516 明治図書 2000年10月 p. 8
73	00-6「静岡県：地域貢献的活動と弾力的時間の運用」最新情報：必ず学べる総合的学習の時間：わが県の一押しはここだ!『総合的学習を創る』No.116 明治図書 2000年6月 p.59
72	00-5「生きる場への知的謙虚さを—変化流動する消費社会に育たざるをえない子どもたち—」『現代教育科学』No.524 明治図書 2000年5月 pp. 8～10
71	00-1「『職業教育』よりも大切な『自立のための教育』と『夫婦の文化』—少子時代の子どもの接し方」『灯台』No.472 第三文明社 2000年1月 pp. 38～39
70	98-12「自尊心を育む、多様な機会、ヒト、言葉、遊びの世界の創造」『心を育てる学級経営』No.162 明治図書 1998年12月 p. 10
69	98-9「地域に開かれた学校づくりを」『ニューサポート 小学校』No.10 東京書籍 1998年9

	月 pp. 20～21
68	98-4 「“アジア諸国への目を向ける”と実践研究の要点」『生活科と共に総合的学習を創る 4月号臨刊』No.87 明治図書 1998年4月 pp. 58～59
67	98-3 「子どもの試行錯誤を どう保障するか」『別冊教職研修 3月増加号』 教育開発研究所 1998年3月 pp. 140～143
66	98-3 「『生活』の内容と活動をどう改善していくか」『教職研修』教育開発研究所 1998年3月 pp. 72～73
65	98-3 「地域の実態を生かす教育課程の編成」『教職研修増刊号特色ある教育課程を工夫する』教育開発研究所 1998年3月 pp. 45～49
64	98-2 「子どもの育ちに謙虚になることから（子どもを励ます言葉）」『楽しい学級経営』No.151 明治図書 1998年2月 p. 5
63	97-6 「教師の高齢化にどう対応するか」『悠』ぎょうせい 1997年6月 pp.30～33
62	97-5 「国際化と情報化の中のアイデンティティ」『日本教育』No.246 社団法人日本教育会 1997年5月 pp. 21～23
61	96-12 「教科の基盤を問い直す機会に」生きる力を身につける—社会科のどこが変わるか—復申『社会科教育』No.432 明治図書 1996年12月 pp. 14～15 →小林宏己先生の往申「総合としての社会科の再生を」附記
60	96-12 「『いじめ』転向と親の校区意識・その将来を読む—学区解体の先にあるものは」『学校運営研究』No.457 明治図書 1996年12月 pp. 58～59
59	96-8 「正直」『教職研修 8月増刊号 個性尊重時代の「価値の教育」』教育開発研究所 1996年8月 pp. 101～104
58	96-8 「『特色ある学校づくり』と学校改革の課題」『学校運営研究』No.453 明治図書 1996年8月 pp. 36～37
57	96-2 「子どもが主役の学級づくりとは 子供と教師が共に暮らし、おりあう中に」『楽しい学級経営』No.127 明治図書 1996年2月 p. 1
56	96-2 「まず、いま時の大人論を提起することから」『現代教育科学』No.471 明治図書 1996年2月 pp. 9～12
55	95-11 「アジアの中の日本という国家システム再創造への課題に応える社会科を」『社会科教育』No.414 明治図書 1995年11月 pp.22～23
54	95-7 「“いじめ”のコントロールは、現代の『人間の証明』」『月刊公民館』458号 社団法人全国公民館連合会 1995年7月 pp. 42～43
53	95-6 「新しい学力観で授業はどう変わるか」『変化の時代の学校像 教職研修 6月臨時増刊』教育開発研究所 1995年6月 pp. 44～45
52	95-5 「『いじめ』のコントロールは現代の『人間の証明』」『楽しい学級経営』No.11 明治図書 1995年5月 p. 12
51	95-5 「林友三郎『おとなは敵だった』の検討—戦後教育 50年『実践記録』の提起を検討」『現代教育科学』No.462 明治図書 1995年5月 pp. 44～45
50	95-4 「“無性の私”が“演ずる男と女”—子どもの本音から始める『男女同権』の教育—読み物にみる男女同権を子どもたちはどう考えているか」『季刊「人権教育研究」』第5号 明治図書

	1995年4月 pp46-49
49	95-4「今一番人気の本にみる『子どもの夢』『生活科授業研究』No.49 明治図書 1995年4月 pp. 20～23
48	95-2「答えは自分の中に一新しい「子ども観」を考えるために一見直すための提案」『現代教育科学』No.458 明治図書 1995年2月 pp. 68～69
47	95-1「学校の外で生きる生活者へのまなざしを一校長・教頭の評定」『現代教育科学』No.459 明治図書 1995年1月 pp. 68～69
46	94-11「市場縮小への危機意識と経営努力を」『現代教育科学』No.458 明治図書 1994年11月 pp.95～97
45	94-11「新しい学力観で子どもの見方を変える」『総合教育技術』小学館 1994年11月 pp. 20～23
44	94-10「学生とともに一衣帯水の隣国で学んだこと」『学校研究』第351号 奈良女子大学文学部附属小学校学習研究会 1994年10月
43	94-6「保護者の側からみて一疑問に思う学校の指導No.5はこれだ」【学校もずい分変わったけれど】馬居喜代子『学校運駅研究』No.421 明治図書 1994年6月号 pp.14～15
42	94-6「子ども一人一人の自然な輝きを求めて 静岡・青島小学校」(全国縦断・ここにこの学校あり 東海)『学校運駅研究』No.421 明治図書 1994年6月号 p.96
41	94-4「生活科ー学びや生活を工夫する力」『児童心理』Vol.48 No.5 金子書房 1994年4月 pp. 74～76
40	94-3「子どもの物の見方・考え方 見直しの課題ー平成6年 生活科研究の焦点はここだ！」『生活科授業研究』No.35 明治図書 1994年3月 pp. 16～17
39	94-3「表現できない世界の豊かさを読み取り意味づける能力を」『せいかつか』創刊号 日本生活科教育学会 1994年3月 pp. 65～67
38	94-2「少子社会の圧力」『初等理科教育』Vol.28 No.2 日本初等理科研究会 1994年2月 p. 9
37	94-2「少年ジャンプにみるヒーローの分析 多色刷りの世界と自立する世界」『授業のネタ教材開発』2月号 No.73 明治図書 1994年2月
36	94-2「学校5日制推進にみる『教科再編成』のゆくえ」『学校運営研究』No.417 明治図書 1994年2月 pp. 50～51
35	93-12「学校週五日制と子どもの地域活動」『子どもと家庭』第30巻第9号 日本児童問題調査会 1993年12月 pp. 8～13
34	93-12「東海の面白ユニーク実践ー探訪記 校庭にバスがやってきた」『授業研究』No.404 明治図書 1993年12月 pp. 18～19
33	93-11「子どもとともに育ち続ける謙虚さを一若い教師へのメッセージ」『楽しい学級経営』No.96 明治図書 1993年11月 p.1 表紙
32	93-10「生活言語飛び交う本物の世界をー『意欲』『持続』『工夫』『表現』『協力』はどんなところに現れるか」『生活科授業研究』No.30 明治図書 1993年10月 pp. 14～17
31	93-8「アイデンティティ再構成の契機に」(「戦後史学習」でどんな未来像を描かせるかーと問われたら)『社会科教育』No.380 1993年8月号 p.22

30	93-8「都市型生活科確立の可能性はあるか」『生活科授業研究』No.28 明治図書 1993年8月 pp. 14～15
29	93-6「各教科の特質に応じた一単位時間の弾力的運用はどのように行えばよいか」 『小学校教育』第6巻6号 教育開発研究所 1993年6月 pp. 34～35
28	93-4「どんなマンガが子どもを揺さぶっているか」『学校運営研究』No.406 明治図書 1993年4月 pp. 66～67
27	93-4「“子どもの事実”とともに“創り続ける”授業を」『現代教育科学』No.437 明治図書 1993年4月 pp.18～20
26	93-3「日韓の子どもと若者の間に新たな“コンガムデー（共感帯）”の創造を」『モノグラフ・ 高校生'93』vol.37 福武書店教育研究所 1993年3月 pp.78～82
25	93-3「子ども理解のテキスト」『教育研究 特集 自分をつくる力』1105号 筑波大学附属小学校初等教育研究会 1993年3月 p. 6
24	93-3「選択履修幅の拡大」「社会科の再編成」「国旗・国家の扱い」『教職研修キーワード時代を 読む』3月増刊号 教育開発研究所 1993年3月 p.37、p.38、p.40
23	93-1「家庭・地域との連携（学校ぐるみの生活科 第10回）」『悠』ぎょうせい 1993年1月 pp. 87～92
22	93-1『朝鮮半島』を解く迫力あるネタはこれだ『社会科教育』No.372 明治図書 1993年1月 pp. 38～41
21	92-12「情報不足を感じているあなたのQに答える」『生活科授業研究』No.19 明治図書 1992年12月 pp. 14～15
20	92-6「発問・指示—どこが違うか（「生活科の研究授業」はどこが違うか）」 『生活科授業研究』No.17 明治図書 1992年9月 pp. 12～13
19	92-6「余暇の過ごし方の指導」『教職研修「5日制」学校経営の組織と運営』6月増刊号 1992年6月 pp. 214～215
18	92-4「生活科を新たな人の育ちの理念とシステム創造の契機に」『総合教育技術』小学館 1992年4月 pp. 110～113
17	92-3「多様な学校観が示唆する共通点の重さ」（五日制）論議から見えてくる「学校教育への世 論」『学校運営研究』No.393 明治図書 1992年3月号 p.6
16	92-2「生活科実践の基本用語」『学校運営研究』No.392 明治図書 1992年2月 pp.126～131
15	91-12「今年の青少年問題から考える」『青少年問題研究』第38巻 第12号 青少年問題研究会編 1991年12月 pp. 4～11
14	91-10「“言葉＝文字”から“場面＝絵”へ—生活科にふさわしい「授業の見方」とは」 『生活科授業研究』No.7 明治図書 1991年10月 pp. 12～13
13	91-8「『近くて遠い国』に学んだこと」『Part II』No.17 連続セミナー授業を創る会編 1991年8月 pp. 22～25
12	91-8「学校の内と外—何が課題か」『教師の広場』季刊89号 静岡県出版文化会 1991年8月 PP. 12～16
11	91-8「生活科の誕生」キーワードで語る授業研究運動史『現代教育科学』No.417 明治図書 1991年8月号 pp.66～67

10	91-7 「生活科－お母さんに知ってもらいたいこと」『母と生活』第34巻7号 静岡県出版文化会 1991年7月 PP. 22～27
9	91-7 「『活動や体験についての思考・表現』の評価をどう行うか」『教職研修』No.227 教育開発研究所 1991年7月 pp. 44～45
8	90-11 「気温は“モノ”なのだろうか」『教材開発』No.33 明治図書 1990年11月 表紙2
7	90-3 「学校と地域の連携」『生涯学習事典』日本生涯教育学会編 東京書籍 1990年3月 pp. 119～120
6	90-3 「学校と家庭の連携」『生涯学習事典』日本生涯教育学会編 東京書籍 1990年3月 pp. 114～115
5	90-3 「楽しくなければ生活科じゃない」『教師の広場』季刊88号 静岡県出版文化会 1990年3月 pp. 7～11
4	89-9 「『学ぶこと』と『学ぶ力』－お年寄りに学ぶ－」『母と生活』1989年9月 静岡県出版文化会 pp. 22～25
3	「生活科・マスタープランを求めて」『学校運営研究』No.362 明治図書 1988年12月 pp. 55～69
2	89-6 「子どもの日常生活から出発する授業実践と教育論創造への共同研究」『会報』第58号 日本教育大学協会 1989年6月 pp. 8～10
1	87-5 「不思議世界 教育実習会探検心得」『教室ツーウェイ ツーウェイ学生版』第1号 明治図書 1987年5月 pp. 11～13